

研究・調査報告書

| | | |
|--|----------|--------|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| A-179 | A-110 | 21-007 |
| 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 | | |
| 題名 (原題/訳) Years of life lost due to alcohol-related mortality: A nationwide population study in Poland, 1999–2017 アルコール関連の死亡による損失生存年数：1999-2017年ポーランドにおける全国規模の集団研究 | | |
| 執筆者 Ciabiada-Bryła B, Maniecka-Bryła I, Paciej-Gołębiowska P. | | |
| 掲載誌 Drug Alcohol Depend. 2021 Oct 1;227:108990. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2021.108990. | | |
| キーワード | PMID | |
| アルコール関連疾患、アルコール使用障害、男性の超過死亡率 | 34482047 | |
| 要 旨 <p> 目的：ポーランド人の飲酒量は欧州平均より多く、近年増加傾向を示す。1999-2017年のポーランドにおけるアルコール関連の死亡率と損失生存年数（YLL）を評価した。 </p> <p> 方法：1999-2017年にICD-10に基づくアルコール関連疾患が原因で死亡した112,512人を含むポーランド住民の死亡証明書7,168,765件のデータベースを調査した。YLLはMurrayとLopesが1996年に開発したStandard Expected Year of Life Lost（SEYLL）指標を用いて算出した。SEYLLの値は人口規模10万人あたり（SEYLL_p）と特定の要因による死亡数に関連して算出した。長期的な傾向は、米国国立がん研究所が開発したjoinpoint回帰分析により求めた。 </p> <p> 結果：調査期間中、アルコールの過剰摂取に関連した死亡が男性の2倍に対して女性では4倍以上に上昇したため、男性の超過死亡率は9.03から4.50に減少した。1999年のSEYLL_pは男性653.99、女性71.20であったが、2017年にはそれぞれ1,263.76、293.10まで上昇した。調査期間全体では男女ともにSEYLL_pの有意な増加傾向がみられたが、年間平均変化率としては男性3.68%よりも女性8.69%の方が早く上昇したため、SEYLL_pの男女比は調査期間中に9.18から4.31まで減少をみとめた。調査対象となった死因の中で、アルコール性肝疾患により合計1,630,592.41年と最も多くのYLLが失われた（SEYLL_p224.01）。 </p> <p> 結論：アルコールはポーランド人のYLLに大きく寄与している。男性は依然として女性よりもアルコールのために多くのYLLを失う一方、男女ともYLLが増加していく傾向を示した。しかしながら、主として女性の方が値の増加がより早いために男女間のYLL格差は徐々に減少している。 </p> | | |